

重度の歯周病で抜歯後の治療 インプラントで健康な歯に

第4回は重度の歯周病について、ペリオインプラントセンター広島「高井歯科医院」の高井康博院長に伺いました。

Q 重度の歯周病で歯を抜いた後どのような治療をするのでしょうか。

A 従来から受け入れられているのは「入れ歯」と「ブリッジ」で、その後「新治療」として「インプラント」が登場しました。部分的に歯を失った場

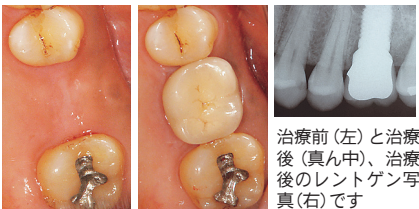


高井康博先生
ペリオインプラントセンター広島「高井歯科医院」院長、日本臨床歯周病学会認定医、J-IADSペリオインプラント講師、3インプラント公認講師

合、入れ歯はクラスプと呼ばれる金属のバネを歯にかけてることによって入れ歯の安定を図ります。治療期間が短く、保険の範囲で治療でき、残った健全な歯を削る必要もありません。ただし、クラスプをかけた歯の寿命が短くなったり、入れ歯と歯茎の間に食片が挟まる、硬い物がかみにくいなどの問題も。

ブリッジは欠損した部位の両隣の歯を削り、その歯を土台として装着。治療期間が短く、固定式なので違和感がありません。硬い物もかめますが、削った歯の寿命が短くなるなどの問題があります。

従来の治療法の欠点を



治療前(左)と治療後のレントゲン写真(真ん中)、治療後のレントゲン写真(右)です

解消する新治療として登場したのがインプラントです。失った歯の代わりに人工歯根(チタン製)をあごに埋め込むことで、本来の歯の機能回復が可能です。少数歯から多数歯まで適応し、健康な歯を削らなくて済みます。審美的にも満足でき、硬い物もよくかめます。しかし、治療が長期になる、保険の適用外といった問題が挙げられます。詳しくは専門医に相談を。